

〔書言字考節用集八〕言辭踞坐カシコル要覽謂二垂也、

〔名物六帖人事四〕體勢作用恭坐カシコル坐而レ不レ相犯、

〔貞丈雜記十五〕一かしこまると云はおそる、事也、貴人主人の威勢をおそる、心也、中今世ひ

ざを折りて正しく座するを、かしこまるといふは、かしこまり坐すると云心也、貴人をうやまひ
おそれて座する也、正座の事をかしこまるとおもふは非なり、

〔雅言集覽十八〕かしこまり五種ノ義アリ、本ノ心ハ恐ル、心ヨリ轉ジタル也、一ツニハ恐ルハ

勘當ノ心、三條四條五條ハ體ノ心、五ツニハ

〔書言字考節用集九〕言辭跨アツラ踞アツラ要覽氏 踞同 寬坐同

〔名物六帖人事四〕體勢作用箕アツラ据アツラ史張耳傳高祖箕据置案隱、

〔宗五大草紙上〕人の相伴する事

一人の相伴の事、貴人の前にて、めし又何にても相伴あらば、物のすはるまでは、ひぎを立て可有、
膳すはり候は、ひぎをくむべし、但座敷せば候て、貴人とひざくみのやうならば、ひぎを立て
もくふべし、時宜によるべし、

〔今昔物語二十八〕左京屬紀茂經鯛荒卷進大夫語第三十

今昔左京ノ大夫ト云フ舊君達有ケリ、中俎ノ上ニ荒卷ヲヲキテ、事シモ大鯉ナド

ヲ作ラム様ニ、左右ノ袖ヲ引疏テ片膝立テ、今片膝ヲバ臥テ、極メテ月々シク居シテ、下

〔古事談王道后宮〕白川院夕御膳之時、侍從大納言成通卿候陪膳、御寢之間漸漏移、依更發脚氣、片膝

ヲ立テ候ケリ、法皇被仰云、宇治ニイハレシハ、於人前搔膝シテ居事、以外白氣事也云々、御詞未了

成通卿逐電云々、

〔禁秘御抄上〕一清涼殿略 中